



公益財団法人 渥美国際交流財団 2023年度秋季研究報告会

当日の写真

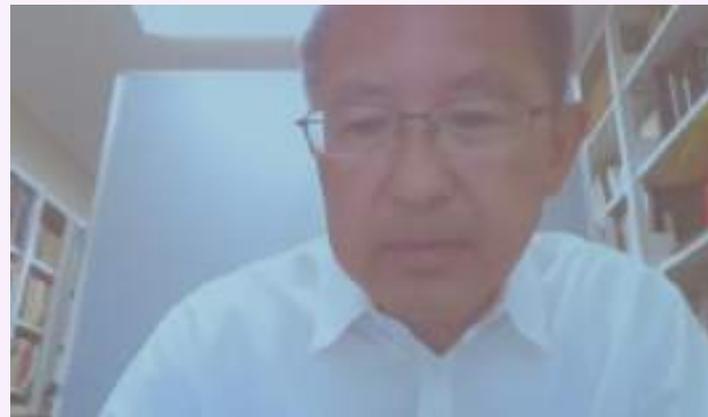




事務局長の原田さんの総合司会のもと、研究報告会がスタート。開会のご挨拶は渥美直紀理事長にいただきました。



徳永 佳晃さん（研究のためヒューストンよりオンライン参加）
「議会主義と独裁体制：1920年代のイランにおける議会制の展開」



指導教官の粕谷元先生と
渥美財団理事平川均先生より
コメントをいただきました。



司会：何 星雨（2023 年度奨学生）

1. はじめに：抑圧的な体制と活発な議会

2023年4月30日イランの新聞(RNA)記事
「商業・工業部大臣を不信任とした会議は
どう推移したか」(RNA 10 OrfEshet 1402)

2023年8月3日イラン学生新聞(SNA)記事
「ホセインザヒー議員：強硬するだけで行動
しないことは許されない」(SNA 12 Mordad
1402)



小美濃 彰さん
「高度成長期の東京・山谷をめぐる
地域社会と運動の史的 연구」



指導教官の友常勉先生（左）と
選考委員の佐藤道信先生（右）より
コメントをいただきました。

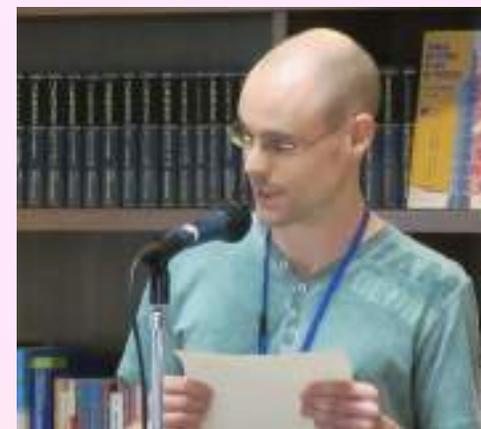
「総寄せ場化」、しかし...

- 「総寄せ場化」と言われるときに、男性中心主義的で均質な主体が想起されているのではないか。
- 寄せ場の歴史にかかわる主体は決してそれだけではない



山谷の五反公園で遊ぶ子供たちの群（横溝景子『転ちゃんになりたい：山根のずらりと生きる日々』あまなる書房、1966年、p.56）

司会：クラフト ロバート
(2023 年度奨学生)

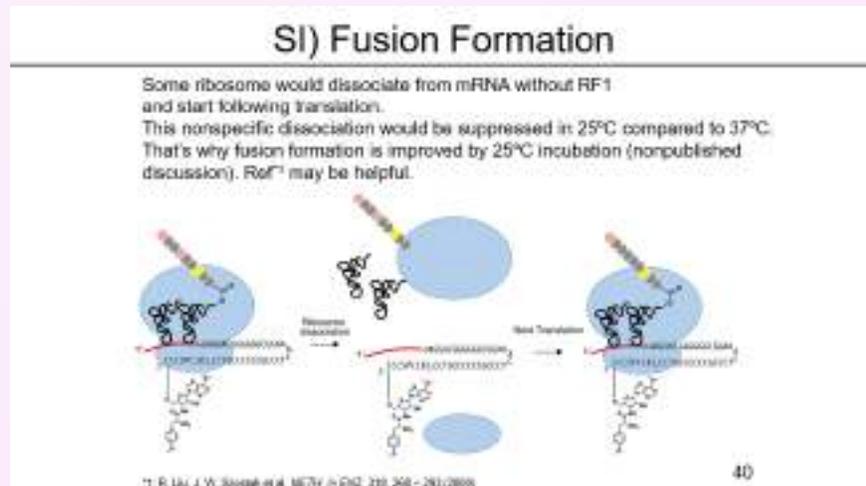




チャンジュンシ
「擬似天然チオペプチド創薬プラットフォームの開発」



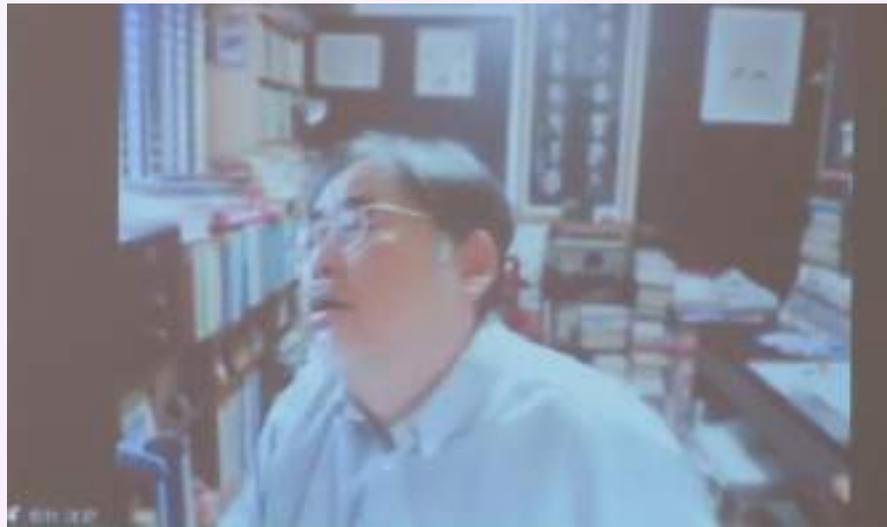
指導教官の菅裕明先生と
財団理事の片岡達治先生に
コメントいただきました。



司会：張 珺（2024 年度奨学生）



賈海濤
「新たな「地域性」の構築
—1990年代以降の上海文学における
ノスタルジア・蘇北叙述と文学言語」



指導教官の坂井洋史先生と
財団理事の劉傑先生より
コメントをいただきました。



司会：白川誠（2023年度奨学生）



黄若翔
「労働者の退職・転職の自由とその制限法理に関する研究
—アメリカ法・台湾法・日本法の比較法的考察—」



指導教官の荒木尚志先生からのビデオメッセージと財団理事の平川均先生からのコメントで発表が締めくくられました。



各アプローチの特徴と問題点

アプローチ	特徴	問題点
労働者保護型	雇用の安定性の利益保護と重視	公的価値実現の機会が希薄
自由競争秩序	雇用の流動性の重視 即使用者の秘密情報性の排除	使用者の利益保護が不十分
公正競争秩序	市場競争秩序の維持 市場競争秩序の維持	特定の価値追求に偏斜する



司会：崔高恩（2024年度奨学生）



● マコーリーの『イングランド史』のフランス語訳刊行

Histoire d'Angleterre : depuis l'avènement de Jacques I, jusqu'à la Révolution. Par Catherine Macaulay Graham. Traduite en français, et accompagnée d'un discours préliminaire, contenant un précis de toutes l'histoire d'Angleterre, jusqu'à l'avènement et enrichie de notes. Par Mirabeau, Paris, Chez Gattey, 1793-1792.

私たちの書かれた状況において、言語の「と訳」はつねに居た。これらの出来人物たち私たちの間には、異なる文化がいくつもあり、知いし別を待たせておいて、ふたりの筆名の歴史が書かれていること。 L.L. & W. de France s.a.s.

訳者があがっていることだろうか？ 知るべき、またあるべき事柄、執筆、編輯がなんと豊富なことか、主に「我ら」として、人並にとっても、ま... L.L. & W. de France s.a.s.

邦訳打ち切り。5巻のクロムウェルの歳(753年)までしか邦訳されず。

Honoré-Gabriel de Mirabeau
Comte de Mirabeau
(1749/3/9-1793/4/2)



楠田 悠貴
「フランス革命期・ナポレオン統治期に
17世紀イギリス革命史を読む、書く」



指導教官の長井伸仁先生（オンライン）と財団理事の劉傑先生にコメントをいただきました。



司会：マスティアゲドン スディーラ
ハサランガグナティラカ（2024年度奨学生）



指導教官のJohn Tagg先生からのビデオレターに引き続き、修士課程在籍時の指導教官でいらした橋本一径先生（オンライン）、財団選考委員の佐藤道信先生よりコメントを頂きました。



久後 香純
「The Theory and Practice of
Photographic Publications
in 1960s' and 1970s' Japan」



司会：徐コシン
(2023年度奨学生)



シム ミンソプ

「植民地朝鮮における伝染病対策と衛生施設の発展：
公衆衛生政策の影響とその限界」



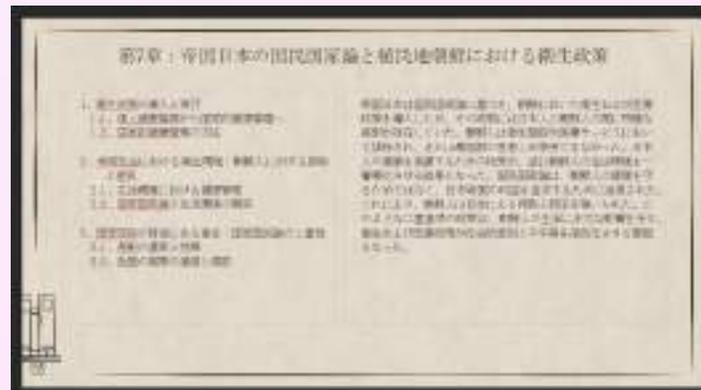
全北大学高麗人研究センター学術研究員
東農文化財団姜徳相資料センター員
李圭洙（イ・ギュス）先生



ロンドン衛生熱帯医学大学院教授
国境なき医師団アドバイザー
ジョナサン・パートレット先生



論文審査委員の李圭洙先生とJ.Bartlett先生からの手紙を今西淳子常務理事が代読したのち、財団理事の片岡達治先生よりコメントをいただきました。



司会：染谷 莉奈子（2023年度奨学生）



会場にお越し下さった東京外国語大学友常勉先生（小美濃彰さん指導教官）より総括のコメントいただいたのち、今西淳子常務理事による閉会のご挨拶で無事終了となりました。オンラインでご参加いただきました皆さまもありがとうございました。

オフショット集

